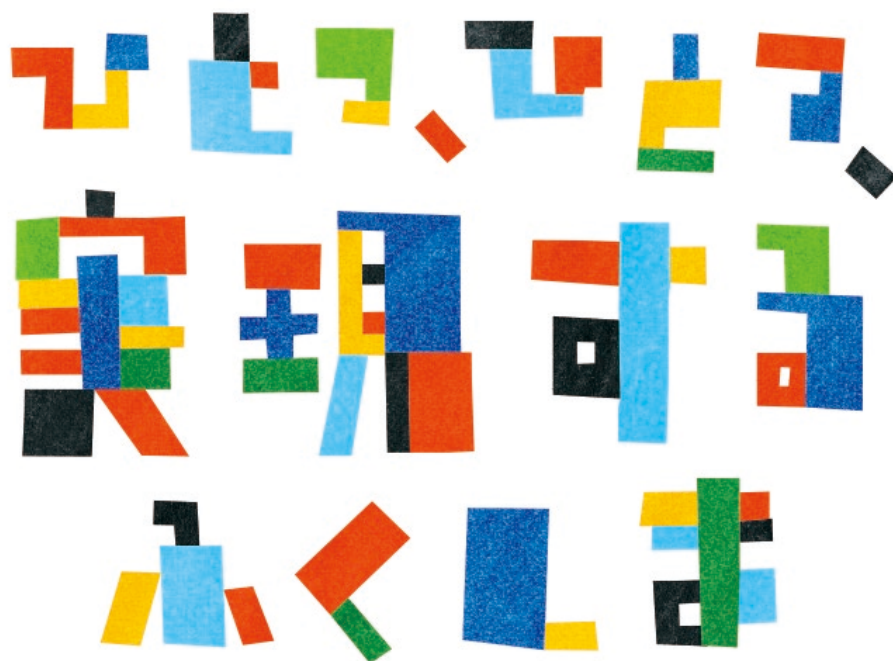


事業計画

令和3年度



福島県ハイテクプラザ

FUKUSHIMA TECHNOLOGY CENTRE

福島県ハイテクプラザ事業計画

令和3年度

目 次

1	福島県ハイテクプラザ組織と事業方針	1
1-1	福島県ハイテクプラザ組織	1
1-2	基本方針	2
1-3	第Ⅱ期中期ビジョンの概念図	2
1-4	第Ⅱ期中期ビジョンの基本活動	3
2	事業計画概要	4
2-1	<u>企業支援業務</u>	4
	【しごとづくりプロジェクト】（全3事業：2-1-1～2-1-3）	
2-1-1	開発型・提案型企業転換総合支援事業 新製品・新技術開発促進事業	4
2-1-2	ものづくり企業のAI・IoT活用促進事業 AI・IoT活用促進事業	4
2-1-3	航空宇宙産業集積推進事業	4
	【産業推進・なりわい再生プロジェクト】（全3事業：2-1-4～2-1-6）	
2-1-4	福島新エネ社会構想等推進技術開発事業 再生可能エネルギー関連技術指導事業	4
2-1-5	チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業 福島県廃炉・災害対応ロボット研究会運営事業	5
2-1-6	放射能測定事業	5
	【一般事業】	
2-1-7	技術支援	5
2-1-8	依頼試験	5
2-1-9	技術移転	5
2-1-10	酵母開発・頒布	5
2-1-11	施設・設備等の開放	5
2-1-12	研究成果発表会	5
2-1-13	研究会活動	5
2-1-14	技術者研修・講習会等	5
2-1-15	講師派遣	5
2-1-16	機器整備	5
2-2	<u>技術開発業務</u>	6
	【しごとづくりプロジェクト】（全1事業：2-2-1）	
2-2-1	【一部新】ものづくり企業のAI・IoT活用促進事業（一部再掲） (1) 【新】人・ロボット協働による工場スマート化支援事業 ① 【新】AIを活用した人とロボットの協働による工場のスマート化支援 (2) AI活用による軽量ロボット部材開発支援事業 ① AI、ビッグデータ解析を活用した軽量ロボット部材の開発支援	6

【産業推進・なりわい再生プロジェクト】（全3事業：2-2-2～2-2-4）

2-2-2	【一部新】福島新エネ社会構想等推進技術開発事業（一部再掲）	6
	（1）【新】ハイテクプラザ再エネ技術高度化事業	
	①【新】高圧水素タンク充填時検査技術の開発	
	（2）両面受光型太陽電池パネル開発事業	
	① 端面で電気接続する両面受光型太陽電池パネルと設置手法の開発	
2-2-3	チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業（一部再掲）	7
	（1）【新】ロボットビジョン技術活用促進事業	
	①【新】自律走行外観検査ロボットの研究開発	
	②【新】技術活用促進事業	
	（2）【新】ロボット部材研究開発事業	
	①【新】3次元金属積層によるアルミ合金構造体の機械的特性に関する研究	
2-2-4	福島県オリジナル清酒製造技術の開発	7
	① 適切な上槽時期の判断による県産酒の高品質化	

【一般事業】

2-2-5	【一部新】基盤技術開発支援事業	8
	① 木質流動成形技術による県産木質資源の用途開発	
	② オリジナル蚕品種の高付加価値シルクデニット素材開発	
	③【新】漆製品による立体模様シートの評価	
	④【新】輸入大豆の特性と味噌への加工適性評価	
	⑤【新】果樹剪定枝を原料とした染色における品質安定化の研究	
	⑥【新】漆塗料の高機能化とその活用に関する研究	
2-2-6	【一部新】産業廃棄物減量化・再資源化技術支援事業	8
	① セルローズナノファイバー複合材料の開発	
	②【新】太陽光利用めっき廃液処理システムの実用化開発	
2-2-7	科学技術調整会議共同研究事業	9
	① 福島県産果実の品質・加工適性評価	
2-2-8	外部資金等活用	9
2-2-9	共同研究等	9

2-3 その他の関連業務 10

2-3-1	【新】「つながる研究室」の活用	10
2-3-2	大学院との連携	10
2-3-3	地域との交流	10
2-3-4	インターンシップ（研修生）の受入	10
2-3-5	市町村等との連携	10
2-3-6	広報活動	10
2-3-7	職員研修	10

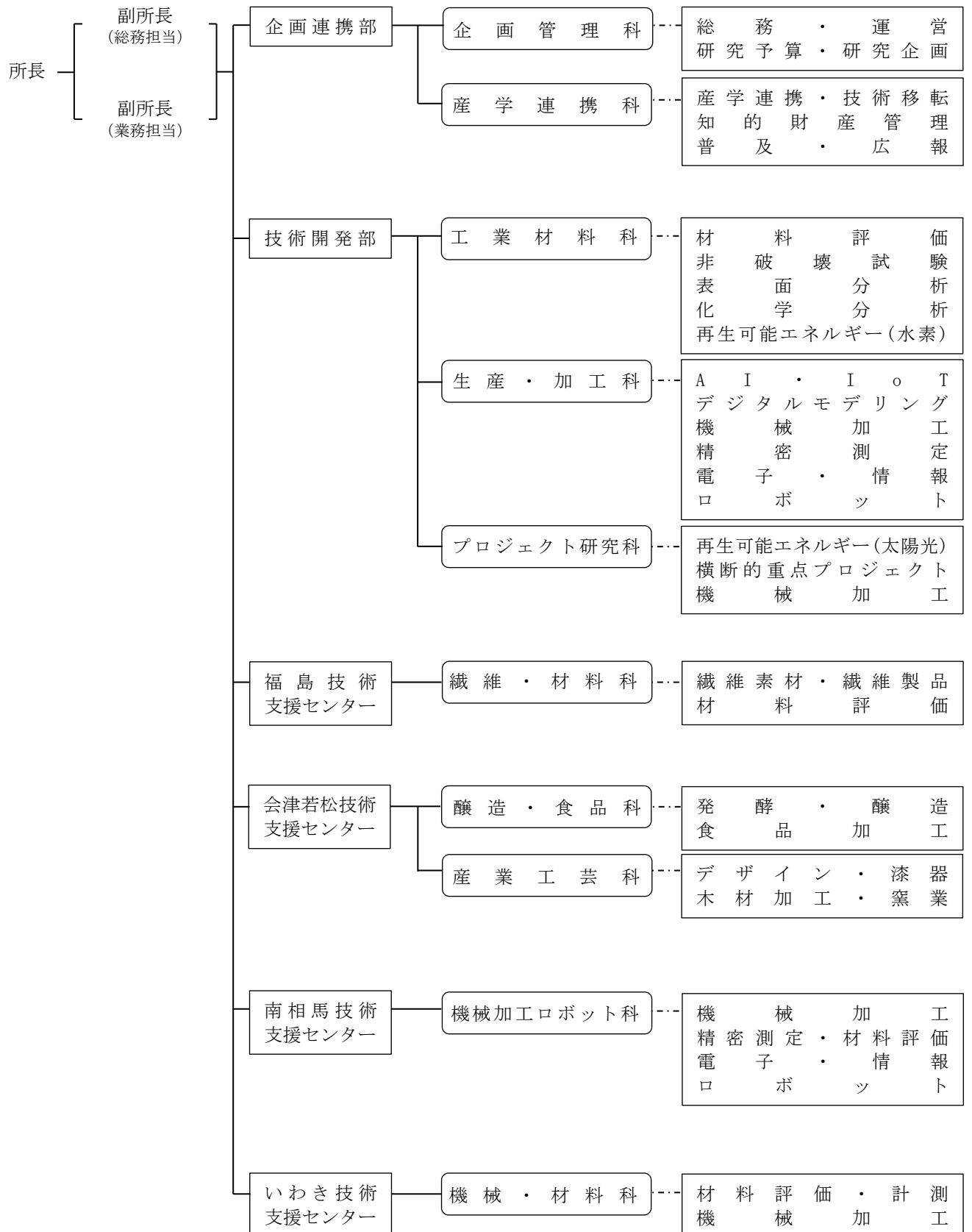
3 福島県ハイテクプラザの位置（各技術支援センターを含む） 11

※県の重点プロジェクトを **【】** で記し、プロジェクトに含まれる事業をその下に記す。

※各事業について令和3年度新規事業を **【新】**、一部新規事業を **【一部新】** で記す。

1 福島県ハイテクプラザ組織と事業方針

1-1 福島県ハイテクプラザ組織



1-2 基本方針

ハイテクプラザの基本理念である「技術支援を使命とする開かれた産業支援機関」を実現すべく、「福島県ハイテクプラザ中期ビジョン」（計画期間：平成29年度～令和3年度）に基づき、県内産業の復興と創生、オープンイノベーションによるものづくりの未来開拓への貢献に取り組む。

企業競争力の向上を目的とした「成長産業分野への誘導」、「ものづくり活動のサポート」の2つの事業方針とこれらを実現するための5つの基本活動（「拓く」、「支える」、「伝える」、「結ぶ」、「育む」）に則った事業展開を行うことで、県内製造業の技術的支援のみならず、技術情報の収集と発信、関係機関・支援機関の連携の中核を担う情報のハブ機関としての機能の構築、イノベーション・コースト構想、水素社会構想等の本県施策実現のための技術的サポートを行う。

1-3 第Ⅱ期中期ビジョンの概念図

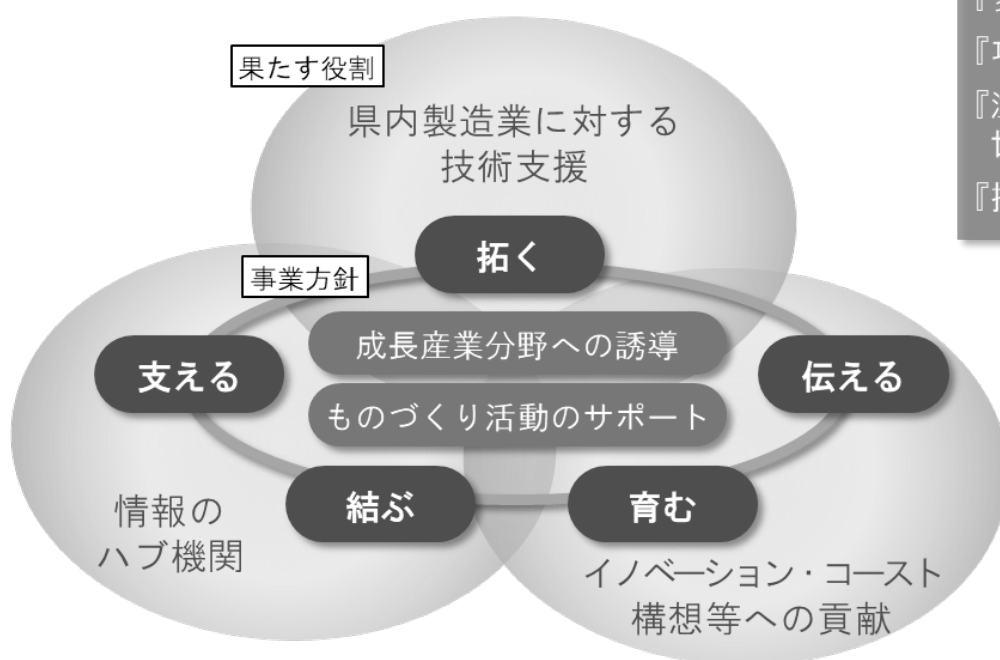
基本理念と3つの目標

「技術支援を使命とする開かれた産業支援機関」として

- 『県内企業とオリジナル技術を育みます』
- 『福島県の復興・創生に貢献します』
- 『オープンイノベーションにより、ものづくりの未来を拓きます』

目指す機能

- 『多様な技術への対応』
- 『巧みなテーラーメイド支援』
- 『注力分野における世界レベルの技術力』
- 『技術情報の発信基地』



行動指針

- 『企業の立場に立ち、企業に寄り添った支援を行います』
- 『フットワークを今以上に軽くし、常に製造現場第一を心がけます』
- 『コンプライアンスを遵守し、誠実な支援を提供します』

1-4 第Ⅱ期中期ビジョンの基本活動

(1)「拓く」～新しい技術の確立～

将来にわたり必要となる技術や、今後活性化が予想される市場に活用可能な技術などについて、ハイテクプラザ単独や研究機関、企業等とのコンソーシアムにより先導的に取り組み、企業に新たな方向性を提示する。

(2)「支える」～製造現場への技術支援～

共同研究や技術相談等を通じた企業への個別支援や生産活動の支援（製造支援と開発支援）により、県内企業の製品品質や生産性の向上を図り、競争力の強化を目指す。

(3)「伝える」～活動や情報の伝達～

県内企業の要望や市場動向などを情報収集するとともに、ハイテクプラザの活動や開発成果等の技術情報を継続的に伝えることにより、県内の技術情報に関するハブ機能を構築する。

(4)「結ぶ」～県内外の団体との連携～

県内の産業支援機関や東北地域の大学・研究機関、全国公設試験研究機関等との連携を強化するとともに、県内市町村との連絡体制を形成することにより、企業支援の多角化と充実を図る。

(5)「育む」～技術者の育成～

ハイテクプラザの保有設備・技術の活用や他機関との連携により企業技術者に対するスキルアップ環境の提供を進めるとともに、人材育成計画に基づくハイテクプラザ職員のスキル形成に取り組んでいく。これにより、イノベーションの創出を担う企業技術者やそれをサポートするハイテクプラザ職員の能力向上を図る。

中期ビジョンについては「福島県ハイテクプラザ中期ビジョン」（計画期間：平成29年度～令和3年度）を参照。（<http://www.pref.fukushima.lg.jp/w4/hightech/publicity/publicity-01.html>）

2 事業計画概要

※県の重点プロジェクトを【】で記し、プロジェクトに含まれる事業をその下に記す。

※各事業について中期ビジョンの基本活動の別を《》で記す。

※各事業について令和3年度新規事業を【新】、一部新規事業を【一部新】で記す。

2-1 企業支援業務

【しごとづくりプロジェクト】(全3事業: 2-1-1 ~ 2-1-3)

2-1-1 開発型・提案型企業転換総合支援事業 《支える》 新製品・新技術開発促進事業

開発型・提案型企業転換総合支援事業の一環として、県内企業等の技術課題解決及び製品開発について、技術指導等の支援を行うことで企業競争力の強化を図る。

開発型企業発掘事業

企業訪問等により、開発意欲のある企業を発掘するとともに、技術課題の抽出及び解決を図る。

目標件数	訪問企業数200社以上
------	-------------

開発支援事業

企業が直面している技術的課題(テーマ)をハイテクプラザが代わりに解決し、その成果を技術移転することで企業の製品開発を支援する。

目標件数	テーマ数20件以上
------	-----------

現場支援事業

企業の製造現場に職員・外部講師を派遣または、ハイテクプラザに企業の従業員を受入れ、企業の抱える課題解決のため、人材育成等を支援する。

目標件数	支援件数30件以上
------	-----------

2-1-2 ものづくり企業のAI・IoT活用促進事業 《支える》 AI・IoT活用促進事業

ハイテクプラザが運営するふくしまAI・IoT技術研究会やAI・IoT実証設備を活用し、県内企業等のAI・IoT活用を支援する。

2-1-3 航空宇宙産業集積推進事業 《伝える》

航空宇宙産業に関連した情報の提供、専門の講師による講演会の開催、関連団体と会員企業間の情報交流等を実施する。また、ハイテクプラザに導入した非破壊検査機器や5軸加工機等を使用した研修を実施し、県内企業等の航空宇宙産業への参入を支援する。

【産業推進・なりわい再生プロジェクト】(全3事業: 2-1-4 ~ 2-1-6)

2-1-4 福島新エネ社会構想等推進技術開発事業 《支える》 再生可能エネルギー関連技術指導事業

「福島新エネ社会構想」を踏まえ、「再エネの導入拡大」「水素社会実現のモデル構築」の実現に向け、水素を含む再生可能エネルギー関連技術を有する県内企業等を支援する。

2-1-5 チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業 《伝える》
福島県廃炉・災害対応ロボット研究会運営事業

原子力発電所の廃炉への県内企業等の参入を支援・促進するとともに、蓄積した技術・製品を災害対応分野に展開するため「福島県廃炉・災害対応ロボット研究会」を設置し、展示実演会や技術セミナー等を通じて、関連機関との情報交換やネットワーク構築に取り組む。

2-1-6 放射能測定事業 《支える》

風評被害への対応として、県内企業等を対象に工業製品の放射線量測定と加工食品の放射能測定を行い、検査に伴う事業者の負担軽減、検査の迅速化及び検査精度の向上を図る。

【一般事業】

2-1-7 技術支援 《支える》

県内企業等が抱える課題等に対して、個別面談、電話、Web相談窓口及びインターネットを利用したオンラインでの面談を活用して、技術相談に対応する。

2-1-8 依頼試験 《支える》

県内企業等の要望に応じ、各種の試験・分析を行い、迅速かつ正確な試験結果を提供する。

2-1-9 技術移転 《伝える》

ハイテクプラザが保有する技術や研究開発の成果を、学会誌等への論文投稿や各種展示会への出展により広く公開するとともに、企業訪問や各種広報活動を通じて県内企業等に周知・提供し、新たな製品開発や技術課題の解決に繋げる。

2-1-10 酵母開発・頒布 《支える》

県内企業等が使用する酵母について、ハイテクプラザ会津若松技術支援センターが研究・開発を行い、醸造に適した活性を持つ酵母を頒布する。

2-1-11 施設・設備等の開放 《支える》

ハイテクプラザが保有する先端機器をはじめとした装置・機器類を県内企業等に対して開放する。

2-1-12 研究成果発表会 《伝える》

令和2年度にハイテクプラザが取り組んだ研究や指導事例について、研究成果発表会を開催しその成果を広く県内企業等に普及・周知する。

2-1-13 研究会活動 《伝える、結ぶ》

ものづくり基盤技術のうち、技術の高度化が著しい分野を中心として研究会を開催し、新技術情報収集や技術勉強会、課題討論等を行う。

2-1-14 技術者研修・講習会等 《育む》

(公財)福島県産業振興センター等と連携し、県内企業等を対象として、先端技術の普及をはじめとした研修・講習会を企画・開催する。

2-1-15 講師派遣 《育む》

県内市町村の商工団体、産業支援機関等で実施している技塾等の技術研修に、講師として派遣し講義・実習等の指導を行う。

2-1-16 機器整備 《支える》

新技術分野の情報サービス、技術相談、技術指導、施設・設備等の開放及び試験研究等の機能の充実を図るため、ハイテクプラザに必要な機器を整備する。

2-2 技術開発業務

【しごとづくりプロジェクト】(全1事業: 2-2-1)

2-2-1 【一部新】ものづくり企業のAI・IoT活用促進事業 (一部再掲)

《支える》

協働ロボットによるテストベッドや、AIを利用したアルミ合金製造条件の最適化などを通して、県内企業等のAI・IoT導入を支援する。

(1) 【新】人・ロボット協働による工場スマート化支援事業

研究課題	研究内容
① 【新】AIを活用した人とロボットの協働による工場のスマート化支援 (R3~R5)	人とロボットが協働してバリ取り等の作業を行うテストベッドを構築することにより、企業の現場に導入した場合を想定した効果検証を可能とし、企業への協働ロボット導入を支援する。

(2) AI活用による軽量ロボット部材開発支援事業

研究課題	研究内容
① AI、ビッグデータ解析を活用した軽量ロボット部材の開発支援 (R2~R3)	アルミ鋳物製の軽量ロボット部材について、製造条件(形状、成分、冷却速度等)と製造された製品の特性(顕微鏡写真、強度、硬さ等)をAIに学習させることにより、必要な特性を得るための最適な製造条件を速やかに導けるシステムを実現し、付加価値の向上、製造現場の効率化、低コスト化を図る。

【産業推進・なりわい再生プロジェクト】(全3事業: 2-2-2 ~ 2-2-4)

2-2-2 【一部新】福島新エネ社会構想等推進技術開発事業 (一部再掲)

《拓く、結ぶ》

福島新エネ社会構想の実現に向け、県内企業等の有する要素技術の高度化により、再生可能エネルギーに関する製品開発や技術の実用化に向けた研究開発を関係機関と連携して実施する。

(1) 【新】ハイテクプラザ再エネ技術高度化事業

研究課題	研究内容
① 【新】高圧水素タンク充填時検査技術の開発 (R3~R5)	水素関連施設で使用する高圧水素タンクの欠陥の有無を診断する「充填時検査技術」を開発する。これにより、高圧水素タンクの点検間隔を最適化することで、水素ステーション等での運用コストの削減を目指す。

(2) 両面受光型太陽電池パネル開発事業

研究課題	研究内容
① 端面で電気接続する両面受光型太陽電池パネルと設置手法の開発 (R2~R4)	バイパスダイオードを内蔵したフラットな両面受光型太陽電池パネルを開発する。また、意匠性の高い太陽電池パネルの設置方法を開発し、県内のパネル及び部材メーカーに技術移転を図る。

2-2-3 チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業（一部再掲）

《拓く》

震災からの産業復興のため、次世代の新たな産業分野であるロボット産業の集積を目指し、ハイテクプラザにおいてロボットの要素技術開発を実施する。

(1) 【新】ロボットビジョン技術活用促進事業

研究課題	研究内容
① 【新】自律走行外観検査ロボットの研究開発 (R3～R5)	目視と聴覚による点検・モニタリングを省力化し人手不足を補うことを目的に、ロボットビジョンによる外観検査及び異音の音源方向検出を可能とする自律走行外観検査ロボットの研究開発を行う。
② 【新】技術活用促進事業 (R3～R5)	ロボットビジョン技術を活用した実演機の試作とロボットテストフィールドでのフィールド実証を行うとともに、講習会により技術者育成を行い、中小企業のロボット産業分野への参入を支援する。

(2) 【新】ロボット部材研究開発事業

研究課題	研究内容
① 【新】3次元金属積層によるアルミ合金構造体の機械的特性に関する研究 (R3～R4)	ロボットテストフィールドに設置されているワイヤーアーク方式金属積層造形装置を用いた複雑3次元形状の作製や複数のアルミ合金が混在したロボットアームの試作を通して、アルミ合金積層造形時の機械的特性等を把握する。

2-2-4 福島県オリジナル清酒製造技術の開発

《拓く》

県産原料を用いた県産清酒の多様化と更なる高品質化による県産品振興を図るため、県産酒の明確な特徴化・他地域との差別化を目指した醸造技術の開発と県内酒造メーカーを支援する。

研究課題	研究内容
① 適切な上槽時期の判断による県産酒の高品質化 (R2～R4)	県オリジナル酵母と県産酒造好適米を用いたオールふくしま清酒の最適な製造技術等を開発し、酒造メーカーへの成果移転を通して、県産清酒の更なる高品質化と販路拡大を図る。

【一般事業】

2-2-5 【一部新】基盤技術開発支援事業

《拓く》

震災からの復興やグローバル化などの課題に直面している地域産業の振興のため、先導的技術や独自技術の開発等に取り組み、その研究成果を技術移転する。

研究課題	研究内容
① 木質流動成形技術による県産木質資源の用途開発 (R2～R3)	産総研の技術シーズ「木質流動成形技術」を応用し、県産木質資源を用いて、木材特有の美しさと、金属やプラスチックなどの工業材料に代替し得る強度を兼ね備えた木質素材を開発する。
② オリジナル蚕品種の高付加価値シルクデニット素材開発 (R2～R4)	燃糸加工を施さなくても十分な伸縮性を持つシルクデニット糸の加工技術を、繊維関連企業に幅広く普及、技術移転することを目的に、織物、ニット用の加工糸を新たに開発する。併せて企業ニーズに沿った加工糸の提供と製品試作を支援することで県内繊維産業の風評払拭及びイメージ回復を目指す。
③ 【新】漆製品による立体模様シートの評価 (R3～R4)	これまでに確立した漆器への立体模様製造方法に対して、素材の組み合わせによる耐久性や密着性等の品質を評価し、実用化と普及を進める。
④ 【新】輸入大豆の特性と味噌への加工適性評価 (R3～R4)	味噌に用いる輸入大豆の多くは中国産であるが、中国国内の需要拡大に伴い輸入が困難になりつつある。そこで、中国産以外の輸入大豆の加工特性を評価し、高品質な味噌の製造方法を確立する。
⑤ 【新】果樹剪定枝を原料とした染色における品質安定化の研究 (R3～R4)	剪定枝等の天然物を染材とした天然染色において、色の再現性は重要な課題である。そこで、剪定枝から抽出した染料や色素を、紫外可視分光光度計や薄層クロマトグラフィーなどで分析し、特性に合わせた抽出、染色条件を選出することで、色の再現性の高い染色工程を確立する。
⑥ 【新】漆塗料の高機能化とその活用に関する研究 (R3～R5)	漆塗料に対する食洗器耐久性評価や水・金属イオン添加による機能性評価を行うことで、現代の加飾技術への適用や会津の伝統技法を活用した食洗器対応漆器を提案する。

2-2-6 【一部新】産業廃棄物減量化・再資源化技術支援事業

《拓く》

産業廃棄物対策をはじめとした循環型社会の構築のため、産業廃棄物排出事業者から技術面からの支援を行うことにより、産業廃棄物減量化・再資源化を図る。

研究課題	研究内容
① セルロースナノファイバー複合材料の開発 (R1～R3)	産業廃棄物であるバクテリアセルロースを微細化しセルロースナノファイバー(CNF)を安価に製造するプロセスを開発する。また、得られたCNFを熱可塑性樹脂に混練し、安価でさびない、潤滑油フリーで摩耗量の少ない新しい摺動材を開発する。

<p>② 【新】太陽光利用めっき廃液処理システムの実用化開発 (R 3～R 4)</p>	<p>太陽光発電の不安定な直流電力を直接利用して、めっき廃液の減量と重金属の回収を行うシステムを開発する。無電解ニッケルめっき廃液の処理において廃液減量率とニッケル回収率を向上させ、企業活動のスケールまで大型化させる。</p>
--	---

2-2-7 科学技術調整会議共同研究事業

《結ぶ》

県内8つの試験研究機関との協力・連携強化を図ることを目的として設置する科学技術調整会議による体制強化を図るため、各分科会の活動を実施する。

研究課題	研究内容
<p>① 福島県産果実の品質・加工適性評価 (R 1～R 3)</p>	<p>県農業総合センターとともに、県産果実のうち県オリジナル品種や県内で多く生産されている品種、地域性を有している品種を中心に、特徴を総合的に評価する。これらの結果をもとに総合的な加工適性を明らかにし、県内加工業者の果実加工品開発を支援する。</p>

2-2-8 外部資金等活用

《拓く》

企業等からの研究委託や競争的資金制度などの外部資金等を活用して、ハイテクプラザで各種研究を実施し、それにより蓄積された研究成果の技術移転を図る。

2-2-9 共同研究等

《拓く》

ハイテクプラザが他機関や県内企業等と共同で、産業振興に寄与する研究開発を行うことにより、新技術の開発や技術的課題の解決を図る。

2-3 その他の関連業務

2-3-1 【新】「つながる研究室」の活用

《伝える、結ぶ》

「つながる研究室」を活用したジャストインタイムの技術相談や試験・研究支援、オンデマンドのWebセミナーにより、企業支援におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する。

2-3-2 大学院との連携

《育む》

福島大学等の県内大学において、客員教授等として大学院生の教育研究指導にあたる。

2-3-3 地域との交流

《伝える》

次世代のものづくりを担う若年世代を対象に、ハイテクプラザの役割や機能について理解を深めてもらうことを目的として一般公開「あつまれっ！ハイテクプラザ」や体験教室「見る！聞く！学ぶ！ハイテクプラザ」を開催する。一般公開では、施設の見学や子どもたちがものづくりや科学を体験できるワークショップを提供する。また、体験教室では、県内の高等学校等の生徒に対して、保有技術や設備を活用したものづくり現場の実際を学んでもらう。

2-3-4 インターンシップ（研修生）の受入

《育む》

県が実施する大学等の学生向けインターンシップのほか、県内の高等学校等の生徒に対して、ハイテクプラザの業務に関係する研修や就業体験を行う。

2-3-5 市町村等との連携

《結ぶ》

技術的課題解決を必要とする県内各市町村及び商工団体等を訪問し、専門的なアドバイスを行う。また、ハイテクプラザで実施する事業の広報と各地域の情報発信を行う。

2-3-6 広報活動

《伝える》

県が主催する展示会や市町村等が開催する産業振興イベント等への積極的な出展のほか、各種団体の所内見学への対応等により、ハイテクプラザの役割・業務内容や研究成果等を広く紹介することで、ハイテクプラザの認知度の更なる向上及び利用企業数の拡大を図る。

2-3-7 職員研修

《育む》

技術革新の進展に応じた技術研修、セミナー等に参加し、スキルアップによる技術指導体制の充実・強化を図る。また、新たな技術習得等のために大学院へ派遣する。

3 福島県ハイテクプラザの位置（各技術支援センターを含む）

【福島県ハイテクプラザ】



【交通案内】

- ・郡山駅からタクシー利用
（約12km）約25分
- ・喜久田駅からタクシー利用
（約5km）約9分
- ・バス利用
郡山駅西口より
「西部工業団地行」乗車
「ハイテクプラザ」下車（約40分）
徒歩1分
- ・東北自動車道
郡山ICより約7km（約10分）

【住所】郡山市待池台1丁目12番地

【福島技術支援センター】



【交通案内】

- ・福島駅西口からタクシー利用
（約5km）約12分
- ・バス利用
福島駅東口より
「7番乗り場（土湯・荒井行）」乗車
「第二日東入口」下車（約30分）
徒歩5分
- ・東北自動車道
福島西ICより約2km（約5分）

【住所】福島市佐倉下字附ノ川1番地の3

【南相馬技術支援センター】



【交通案内】

- ・原ノ町駅からタクシー利用
（約4km）約10分
- ・常磐自動車道
南相馬ICより約10km（約20分）

【住所】南相馬市原町区萱浜字新赤沼83番

【いわき技術支援センター】



【交通案内】

- ・いわき駅からタクシー利用
（約11km）約20分
- ・湯本駅からタクシー利用
（約3km）約5分
- ・常磐自動車道
いわき湯本ICより約9km（約12分）

【住所】いわき市常磐下船尾町杭出作23番32号

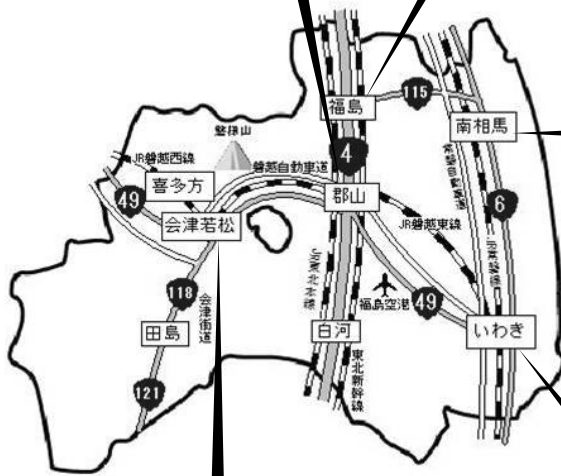
【会津若松技術支援センター】



【交通案内】

- ・会津若松駅からタクシー利用
（約2km）約5分
- ・磐越自動車道
会津若松ICより約3km（約6分）

【住所】会津若松市一箕町大字鶴賀字下柳原88番1





福島県ハイテクプラザ事業計画

令和3年度

令和3年3月発行

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/w4/hightech/index-pc.html>

E-Mail hightech-renkei@pref.fukushima.lg.jp

発行

福島県ハイテクプラザ

〒963-0297 郡山市待池台1丁目12番地

代	表	024-959-1741
企	画	024-959-1736
管	理	024-959-1741
科	連	024-959-1737
産	学	024-959-1738
携	携	024-959-1739
科	業	024-959-1761
材	料	
工	業	
生	産	
・	加	
工	工	
科	科	
プ	ロ	
ジ	ェ	
ク	ト	
研	究	
科	科	
F	A	X

福島県ハイテクプラザ福島技術支援センター

〒960-2154 福島市佐倉下字附ノ川1番地の3

代	表	024-593-1121
織	維	024-593-1122
・	材	024-593-1125
材	料	
科	科	
F	A	X

福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター

〒965-0006 会津若松市一箕町大字鶴賀字下柳原88番1

代	表	0242-39-2100
醸	造	0242-39-2977
・	食	0242-39-2978
品	科	0242-39-0335
産	業	
工	芸	
科	科	
F	A	X

福島県ハイテクプラザ南相馬技術支援センター

〒975-0036 南相馬市原町区萱浜字新赤沼83番

代	表	0244-25-3060
機	械	0244-25-3060
加	工	0244-25-3061
ロ	ボ	
ッ	ト	
科	科	
F	A	X

福島県ハイテクプラザいわき技術支援センター

〒972-8312 いわき市常磐下船尾町杭出作23番32号

代	表	0246-44-1475
機	械	0246-44-1475
・	材	0246-43-6958
材	料	
科	科	
F	A	X

編集

福島県ハイテクプラザ 企画管理科